

はじめに

水生植物部会は、市内の水辺に生えている水生植物の調査・保全を目的にしています。

環境の変化などによって多くの植物が生育を脅かされている中で、水辺環境に生育する植物も、その多くが絶滅の危機に瀕しています。例えば「名古屋版レッドリスト2015」では、リストに掲載された植物の、4種に1種が水辺の植物でした。

稲作の衰退や除草剤の影響、水質汚濁なども原因ですが、外来種が増えることも原因となっています。外来種の中で、ザリガニ、ソウギョ、コイ、アカミミガメなどの動物は水草を食べてしまいます。また、植物では園芸スイレンの他にホテイアオイや、キショウブなどの外来種も日本の水草の生育している場所を横取りしています。



図1. 水生植物を食べてしまう動物たち

これまでの主な活動内容

園芸スイレンをはじめとした外来種の駆除と、希少種の調査が主な活動内容です。

平成23年に名古屋市内111か所のため池のうち、87か所のため池を調査しました。多いのはヨシ、ガマ類、ヒシという在来種でしたが、次に多いのが園芸スイレンとキショウブでした。この園芸スイレンを除去するため、刈り取りや掘り上げ、遮光シートの敷設など、様々な方法で取り組んできました。

希少種の保護に関しては、平成24年に再発見された名古屋城のお堀に生育するオニバス

の調査など、市内各所の水辺に生える水生植物の調査を行っています。



図2. ため池に広がる園芸スイレン

平成27年度の活動記録

● 東山新池での園芸スイレン除去活動

千種区の東山新池では、池の大部分を園芸スイレンが覆っています。この園芸スイレンを除去するため、平成25年3月に約170㎡の遮光シートを敷設しました。平成27年12月に約3年間被覆した遮光シートの撤去を行い、シートの下に園芸スイレンが腐敗していることを確認しました。



図3. 池から引き上げた遮光シート

● 名古屋城のオニバス調査

平成27年6月の調査で大小含め20株のオニバスを確認しました。9月の調査では、再発見以来最も大きい直径131cmの葉を付けた個体が見られました。しかし、この1個体以外は見られませんでした。



図4. 9月に確認した巨大なオニバス

見つけたオニバスの葉1枚を採取し、押し葉標本にしました。完成した標本はなごや生物多様性センターまつりで展示しました。



図5. なごや生物多様性センターまつりでの展示

● 水田雑草調査

千種区の水田で水田雑草の調査をしました。前年度と比較して、生えている植物の種数は変わりませんが、分布域が変わっている様子を確認しました。



図6. 千種区の水田全景

● ドローンによる分布調査

名東区の塚ノ杵池でドローンによる園芸スイレンの分布調査を行いました。園芸スイレンが池の北西部に繁茂し、南東部にもいくつかのパッチが確認できました。



図7. 塚ノ杵池の写真

今後について

水生植物部会の活動は、平成28年度から水辺の生きもの部会において、引き続き水生植物の調査・保全等の活動を行います。